

聖書日課 『からし種』 2025.3.2-3.8

<p>3月2日 (日)</p> <p>マタイ 18章</p>	<p>「イエスは言われた。『あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい』(22節)。七の七十倍とは、無限に赦すこと。それは主なる神の愛による赦しにほかならない。</p> <p>「わたしたちも自分に負い目のある人を／赦しましたように」(6章12節)と祈る時、心から赦すことのできない自分を知らされ、改めて主の示される愛の赦しの大きさに気づかされる。</p>
<p>3日 (月)</p> <p>マタイ 19章</p>	<p>「しかし、イエスは言われた。『子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである』」(14節)。純粹に心からイエス様を信頼する者たちに天の国は開かれている。たくさんの財産に心が残り、悲しみながらイエス様の前を去っていった青年。この後、彼の悲しみが癒されることはあったのだろうか？</p>
<p>4日 (火)</p> <p>マタイ 20章</p>	<p>「群衆は叱りつけて黙らせようとしたが、二人はますます、『主よ、ダビデの子よ、わたしたちを憐れんでください。』と叫んだ」(31節)。心からの切実な願いが、二人の叫びには込められていた。その願いを、イエス様は深く憐れんでくださった。イエス様の許には、心から信頼して憐れみを願う人々が集う。わたしたちも心から主を信頼して、憐れみを祈り願おう。</p>
<p>5日 (水)</p> <p>マタイ 21章</p>	<p>「大勢の群衆が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は木の枝を切って道に敷いた。そして群衆は、イエスの前を行く者も後に従う者も叫んだ。『ダビデの子にホサナ』」(8・9節)。熱烈にイエスを歓迎し、褒めたたえた群衆が、数日後にはイエスを十字架に付けろと叫ぶようになる。御国の言葉を聴こうとせず、自らの願望に捉われる心の危うさが現われる。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2025.3.2-3.8

<p>6日 (木) マタイ 22章</p>	<p>「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」(14節)。「種を蒔く人」のたとえ(13章)のように、御言葉の種は多く蒔かれる。けれど、良い土に落ちる種は少ない。きちんと種を育むことが難しいように、主に選ばれる道を歩き通すことができる人は、非常に少ない。今、自分の心の石を取り除き、茨を刈り込んで、土を耕し、選ばれる実を付ける努力を重ねていこう。</p>
<p>7日 (金) マタイ 23章</p>	<p>「だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである」(3節)。例えば「隣人を自分のように愛しなさい。」(22:39)の御言葉は、誰もよく知っており、大切な掟であることも分かっている。しかし、それを行いつづけることはどれほど困難か。御言葉を行う者としてください。日々祈り続ける。</p>
<p>8日 (土) マタイ 24章</p>	<p>「そして、御国のこの福音はあらゆる民への証として、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりがくる」(14節)。十二弟子も知ることのなかった東の果ての国のわたしたちにまでも、主の福音は宣べ伝えられることを、イエス様はご存知だった。善い知らせをいただいたひとり一人がさらに、主の働きを担わせていただき、福音を宣べ伝えるように祈られている。</p>
<p>9日 (日) マタイ 25章</p>	<p>「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう」(21、23節)。5と2タラントン「預け」られた僕への主人の労いの言葉。よく読むと最後の言葉は「管理させよう」であり「あげよう」ではない。タラントンはどこまでも「主人の財産」。私たちは僕として「管理する者」にすぎない。ふさわしい「忠実さ」を祈り求めていきたい。</p>